

三重・伊勢寺遺跡

- 1 所在地 三重県松阪市伊勢寺町
- 2 調査期間 一九九〇年(平2)九月～十二月
- 3 発掘機関 三重県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 竹内英昭
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代後期～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大河内)

伊勢寺遺跡は、松阪市街地の北西約5km、市街地を抜ける阪内川の扇状部に位置する。標高はおおよそ40mほどであるが、遺跡の東西で7m近い標高差がある。伊勢寺遺跡の周辺は、遺跡の宝庫とも言うべき場所である。奈良・平安の古代を中心に、縄文時代の遺跡から中世の遺跡まで豊富に所在し、継続的に集落が営まれてきた地域と言えるよう。

伊勢寺廃寺を含む伊勢寺

遺跡の調査は県営圃場整備事業に伴うもので、一九八七年度に始まり、一九九〇年度まで行なわれた。四年間におよぶ調査の結果、奈良時代前期創建の伊勢寺廃寺の寺域に関わると思われる大溝の確認を始め、奈良時代から平安時代初期頃を中心とする堅穴住居や掘立柱建物、井戸などがみつき、五〇万㎡に及ぶ広大な遺跡の性格が少しずつ明らかになってきた。

また、遺物も豊富で、多量の土器類や伊勢寺廃寺に使用された瓦類などのほか、特筆すべきは須弥山と思われる三彩陶器などがある。今回報告する一九九〇年度の調査は、伊勢寺遺跡のうちで、寺北地区と呼ばれるところで、伊勢寺廃寺の北方約一〇〇mほどの位置である。

AからNまでの一四に分かれた調査地区からは、縄文時代後期に遡る旧河川や奈良時代～平安時代の堅穴住居や土坑、溝などとともに中世や近世の遺構や遺物も検出・発見された。

中世に属する遺構には、鎌倉時代や室町時代の井戸、土坑などがある。今回紹介する呪符木簡は、この室町時代に属するM地区の井戸SE2から出土した。

この井戸は調査区の南端に位置しており、掘形をすべて検出することはできなかったが、径一・三m、掘形径三・五mの石組の井戸である。石組の特徴として底面に近くなるほど径が小さくなり、石組には人頭大の石材を多用するが、最下段のみが大型の石材を用い

ている。

埋土は井戸内に自然堆積した粘土層である下層と、廃棄後に一気に埋められたと思われる上層に分けられ、上層からは土師器皿・鍋や陶器類、青磁などが若干出土し、下層からは呪符木簡のほか曲物の蓋板などの木製品が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「蘇民将^{〔来カ〕}□」

・「 ☆ 」

220×32×5 032

木簡は、井戸SE2の底部から出土した。上層の遺物が一五世紀後半から一六世紀前半頃に比定されており、下層からの出土なのでそれ以前、一四～一五世紀のものであろう。表面に四文字分墨書が残っており、蘇民将来札であることがわかる。また、裏面には安倍清明判のセーマンが記してある。

9 関係文献

三重県埋蔵文化財センター『伊勢寺遺跡』（平成2年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財調査報告―第2分冊―、一九九一年）

（福田哲也）

